

3-5

演題	新聞紙の再利用について
副題	

法人名	社会福祉法人 藤英会
施設名	特別養護老人ホーム 潮見台みどりの丘

発表者名 (職種)	内田 裕久 介護職員
共同発表者	佐野 匠
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	川崎市麻生区王禅寺 1241-38
TEL	044-955-1746
FAX	044-955-1730
メールアドレス	midori@toeikai.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム 特 養 定員 120 名 短期入所 定員 20 名 通所介護 定員 30 名 居宅支援事業所
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

私たちの施設は川崎市の SDGs ゴールドパートナーです。施設内で行っている SDGs の取り組みについて伝えていきたい。
高齢者施設でも普段何気なく行っている取り組みが SDGs の活動につながっているかもしれないので活動の輪を広げていきたい。

取り組んだ課題

- ・ オムツ、パットを捨てる際に使用するレジ袋の削減を目指す。
- ・ 施設内で使用しているレジ袋の必要性を考える。
- ・ 新聞の再利用について。

具体的な取り組み

- ・ 高齢者施設では排泄物のゴミは多く、その際に使用するレジ袋の使用量も増えてしまう。代用品として新聞紙を活用する。
- ・ 地域の新聞販売店、ご家族様の協力もあり新聞紙の再利用が行える。
- ・ オムツ、パットを新聞で包む際適度なサイズに畳む必要があるため、入居者様にレクの一環として畳む作業を手伝っていただく。

活動の成果と評価

- ・ 私たちの施設では特養、短期入所の方合わせて約 140 名の方が生活しています。排泄物を捨てる際に必要となるレジ袋の枚数は 1 日で約 700 枚。1 年で 255,500 枚。13 年間で 3,321,500 枚。その分を新聞紙で代用できました。
新聞を持ってきてくださる地域の協力、新聞を畳む入居者様の協力、実際にオムツを新聞で包むスタッフの協力で開設から 13 年継続することができました。

今後の課題

- ・ 開設時から行ってきた SDGs の活動内容は当初「環境に配慮した取り組み」を目指して行ってきました。

その活動が SDGs 活動に繋がっていました。

- ・ 今後は SDGs の活動に向けて新たな取り組みを目指していきます。
これまでは「レジ袋の削減」を目指してきましたが今後は施設内で使用しているレジ袋をなくす「レジ袋使用ゼロ」を目指してまいります。